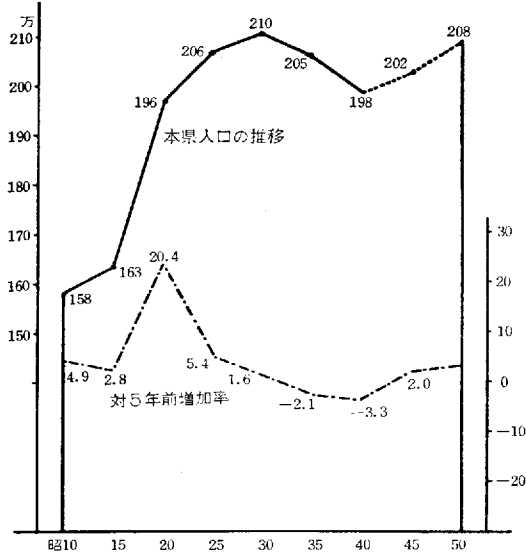


第6図 本県人口の推移と見通し



第7図によって、出生率、死亡率、自然増加率の推移をみると、出生率は、昭和30年には1,000人について23.4人であったが、漸減して昭和39年には17.8人となり、全国平均17.6人より上回っている。死亡率も減少傾向をたどっている。昭和30年の死亡率は、1,000人につき8.7人であったが、昭和39年には、7.7人となり、全国平均6.9人より多い。昭和39年の自然増加率は、10.1人で全国平均自然増加率10.7人より少い。

自然増加率が、全国平均増加率より低く、また、県外流出による減とあいまって、本県人

第2表 本県人口の社会増減の推移

	県外への転出 人	県外からの転入 人	増減数 人
昭30	70,942	50,916	△ 20,026
31	67,411	49,517	△ 23,894
32	68,918	40,528	△ 27,790
33	62,114	36,909	△ 25,205
34	65,286	34,569	△ 30,717
35	70,365	33,960	△ 37,005
36	69,771	33,649	△ 36,122
37	71,736	37,861	△ 33,875
38	70,284	41,118	△ 29,116
40	72,410	43,181	△ 29,229

昭和40年には、昭和20年の人口に近い198万に減少している。

昭和30年、40年度間の社会増減を第2表によって、県外への転出、県外からの流入の差引をみると、昭和31、32、33年は、2万人の県外流出減であったが、わが国経済成長のめざましかった昭和34、35、36、37の各年度は、3万人余の県外流出減を示し、昭和38年以後は、減少が鈍化している。ここ10年間の社会増減は、累計272,953人の減であるが、実数の減は、12万人である。これは出稼ぎ、離職帰郷、自然増加による差から生じたものであろう。

第7図 出生率・死亡率・自然増加率の推移

